

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990300147		
法人名	社会福祉法人 星風会		
事業所名	グループホーム こすもす2号館		
所在地	栃木県栃木市惣社町123-3		
自己評価作成日	平成25年 7月 30日	評価結果市町村受理日	平成25年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年 9月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアが充実するように努めています。個人個人の要望が、できる限り叶えられるようにその都度職員全員で検討し、要望に一番近い形での実現を目標に努力しています。又、身体状況に変化があった時にも一方的なケアではなく、データを取ることで適切なケアを模索し、本人の希望と合わせたよりよいケアができるよう努めています。
又、法人内での催しへの参加や、ボランティアの見学等グループホーム以外の人との関わりをもち、社会生活的な刺激をなくさないようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは田畑に囲まれた閑静な所に位置している。同敷地内には介護老人保健施設、デイサービス、訪問看護等があり、常に連携が取れる状況になっている。年に1度はアンケートを実施し、利用者や家族からの意向を把握して、ケアの改善に努めている。2ユニットあるが、出入りが自由に行えるようになっており、職員全員で顔なじみの関わりが持てる工夫もされている。看取りは昨年度3件の実績があり、医療機関の協力を得ながら、利用者本人や家族、ケアを行う職員への精神的なフォローも随時細やかに行われている。管理者は職員のケアの技術向上だけでなく、精神的な面でも支援に努めている。地域との関わりもボランティアの協力を得て、ホーム独自や法人全体など、さまざまな機会を活用しながら深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示し誰もが目の届くようにすることで、意識付けを行っています。会議を利用し管理者、職員で確認する時間を設けるようにすることで実践につなげる努力をしています。	理念は、毎月行う全体会議の中で職員全員で検討を重ねて作ったものである。更に、日々のケアの中でも取り上げ共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の神社に初詣に出かけたり地域の公民館祭りや小学校の運動会に参加している。採れた柚子をいただいたり、七夕のときには近所の方から竹をいただくなどしている。同法人デイサービスと連携し、ボランティアの見学にも行っています。	法人全体で自治会に加入をしている。地区公民館祭りに作品を展示させて貰っている。法人全体でも年4回の交流事業を開催しており、参加している。ボランティアの訪問も頻回であり地域との交流を深め、利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で行われる地域交流事業の場に参加し作品を展示する等して地域の人々に向けて発信できるように努めるとともに、地域運営推進会議の場で地域の人々に向けて活かしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しサービスの状況を報告しています。又、地域からの情報共有に努め、サービス向上に活かすよう努めています。	運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者代表・家族代表・地域代表・民生委員・民生児童委員協議会長の参加により開催され、行事報告や外部評価報告をし、問題点などを議論している。また、駐在所や地域包括支援センターの企画参加、避難訓練や体操など参加型の内容も取り入れてサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	栃木市高齢福祉課に相談、アドバイスを頂きながら協力しています。又、包括支援センターの職員にも推進会議に参加して頂き、事業所としてもネットワーク会議に参加する等して協力関係を築けるようにしています。	市担当者には相談の他、介護保険法改正に対するの助言をもらうなど、計画作成担当者及び管理者が業務や事務的な内容等で連携を図っている。また、地域の高齢者・民生委員との「国府地区高齢者ネットワーク推進会議」にも参加して積極的に関わっている。更に、包括支援センターと連携してサポーター講座を開くなどの協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で拘束について正しく理解する機会を設け委員会ではアンケートで意識調査を行っています。又、これは身体拘束かもしれないという危機感をもって常にケアするよう心がけています。	リスクへの検討を重ね身体拘束委員会が主体となって年1回意識調査を実施している。言葉の拘束や精神的な拘束についても、日々のケアの中で職員同士で確認し、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は昼間開放し夜間9時半過ぎの職員交替時に施錠されている。	
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や委員会を設け虐待について話し合う機会があります。今年度の内部研修でスピーチロックという心理的虐待について学び、言葉遣いへの関心が高まりお互いに注意しています。予防処置を活用し職員への意識付けを行っています。		

グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で勉強会を設けるようにしてま す。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時には不安や疑問点について時間をかけ 話し合いを行っている。又、改定等については家 族会を開催し理解を得られるようにし、個別相 談会も開催し十分な説明を行い理解が得られる ように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	アンケートを実施し、結果を運営推進会議や通信 を利用し外部者へ表せる機会を設けています。ま た、ご意見箱を設置していますがなかなか意見が 入らないことから日頃の会話や表情・態度から伺 える要望を重点的に吸い上げるように心掛けてい ます。	毎年10月に同じ内容で利用者、家族アンケートを 実施しており、年々の変化も分析して、結果は職員 会議にて伝えている。意見の反映として今年度か ら毎月「こすもす通信」を発行し活動を周知する機 会となっている。また、日頃の何気ない会話や態度 も把握し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回は全体会議を開催し、意見交換や情報 共有ができるようにしています。各委員会 活動にも積極的参加するようにしています。	職員意見はユニットごとにあらかじめまとめ、 全体会議にあげる体制をとっている。各委員 会からの細やかな意見も収集している。ま た、職員の採用条件についてもスタッフの意 見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	資格取得時には給料に反映されています。 契約職員以上になれば資格手当を含む各 種手当があり、登用制度もあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め ている	施設内外の研修参加の機会を設けていま す。研修後は施設内で報告会を行い研修で 得たものを共有するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく 取り組みをしている	施設外研修を利用しています。又、県のグ ループホーム協会に参加していますが、グ ループホームのネットワークはまだ希薄であ り今後の課題となっています。同法人間で交 流研修をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に見学に来て頂きご本人と面接をした上で、不安や要望を確認し信頼関係を確保するよう心掛けています。又、信頼関係を築く事はとても難しく慎重に行うべき事と感じています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談から入居するまで連絡を密にとり本人、家族の不安や要望があれば時間をかけて話し合いをしています。また、必要に応じてその都度話を聞く機会を設けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を確認しながら、初期相談の段階では他のサービス利用も含めた対応をしています。必要としているサービスを見極め、優先順位を設けながら対応できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴の把握に努め、本人のできることは一緒に行い「共に生活している」という気持ちを持っていただけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や日々の様子はご家族に報告しています。家族にしかできない事が多々あるので随時連絡し協力して頂いています。又、通信を利用し近況を報告したり行事開催時には案内状を送り参加を呼びかけ絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や美容室等、これまでの関係が継続できるように家族の協力を頂きながら支援しています。	家族に協力を得ながら、かかりつけ医や理美容に通っている。また、利用者から希望のある店や近くのスーパーに出掛ける支援をしている。知人なども定期的に来ており馴染みの関係が維持できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの性格などを把握したうえで利用者同士が関わりあえるような支援を心がけています。しかし関わりあうことを嫌い孤立傾向の利用者がいることも事実です。		

グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ移転した方の所へ面会に行き本人の経過を見守ったり、家族との連絡等とりながら相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から意見や要望を確認し、本人の望む生活に少しでも近づくよう個別でのサービス提供に努めています。困難な場合は家族の協力も得ながら本人本位の支援ができるように努めています。	日々の生活の中で利用者一人ひとりの思いを把握して、個別のサービス提供に努めている。月1回、見える家族からも情報や要望を伺い本人に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接等でこれまでの暮らし方好み等をプライバシーに配慮しながら、聴取し経過の把握に努めています。又、入居後にも本人との会話から反映できるようにするとともに、必要時には家族にも確認させていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を生活支援記録、業務日誌に記録し全職員が共有できるようにしながら現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人・家族・訪問看護等の意見を確認の上でサービス担当者会議を開催、職員の意見も反映した上で施設サービス計画書を作成しています。	ユニットごとの職員が参加して作成している。日々の状態を把握しつつ、各サービス担当者会議の意見をもとに現状に即した介護計画を作成し、家族の確認を得ている。モニタリングは6ヶ月を基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援記録に日々の生活の様子を記録し情報共有に努めています。又、課題があればその都度話し合いの場を設けています。記録の必要性については随時勉強会を設けるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し可能な限り、柔軟な支援に取り組んでいます。職員の状況により迅速に対応できない場合はご家族に協力頂けるよう家族との信頼関係構築にも力を入れております。		

グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容・訪問販売等を利用しています。外食や、買い物に出かけたり、地域の行事に参加して豊かな生活を送れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に受診できるように家族の理解と協力を得ています。また通院時には主治医に情報提供書を提出したり、同行させていただいています。	殆どどの利用者が家族の協力で入居前からのかかりつけ医へ受診している。入院時も円滑に行える体制となっている。また、状態変化時などは、職員も同行しながら適切な医療が受診出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に随時状態を報告、相談しています。又、必要時には訪問していただいています。緊急時には、看護師と連携を図り、医師の適切な診察が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には定期的に面会に行く等して状態の把握に努めるとともに、病院関係者との情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族との話し合いを行いながら対応しています。職員の知識向上は訪問看護の協力を頂きながら研修を行っている。	早い段階で家族と話しあっており、昨年度は3件の看取り経験がある事から準備も出来ている。訪問看護など医療の協力を得ながら、利用者や家族だけでなく、ケアをする職員へのフォローも細やかにしている。また、訪問看護協力指導のもと法人内研修により知識の共有と支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行っていますが、全ての職員が対応できる実践力を養うための訓練は不足しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(うち1回は夜間)と月1回こすもすとしての避難訓練を実施しています。緊急通報装置には地域住民の方々を登録していただいています。	消防署指導の下、年2回夜間避難訓練を含め実施している。昨年は地域の方も参加をして避難訓練を行い、課題を出し合う機会となった。今年も運営推進会議で依頼をしている。ホーム独自で毎月避難訓練を実施している。備蓄を年1回は確認しており3日分を確保している。今後は、竜巻への対応も検討する予定となっている。	地域からの協力だけでなく、事業所が受け入れ先になれるという協力関係を築けるような体制作りと、避難口が玄関だけとなっているため、玄関以外の避難経路の確保の検討を期待したい。

グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重した言葉かけ、プライバシーを損ねないような対応をしています。適切な対応ができているかどうか、職員同士で十分に声かけ合うようにしています。	利用者の精神的な面への配慮をしながらプライバシーを損ねないよう個別に対応工夫し良い関わり方を共有している。管理者は利用者だけでなく、職員への精神的フォローも行いながら質の高いケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じて意思を表明できる環境作りに努めています。本人の持っている力を見極め自己表現したり自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは決まっているものの、1人ひとりのペースを大切に本人の意思を尊重し希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、衣服を自ら選んで身支度を整えていただいています。散髪の希望があった場合は迅速に訪問理美容に依頼し来所して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは主に職員が行っていますが、片付け等と一緒にしています。おやつ作りなど行事のときには、調理に参加して下さる方もいらつしゃいます。	食材、献立は配達業者に依頼しており、職員が作っている。職員は利用者と同じ物ではないが会話と見守りをしながら摂っており、一緒に片付けをしている方もいる。毎月1回以上は、おやつ作りを一緒に行う企画をし、たこ焼きやカキ氷、ホットケーキなどを作り利用者からは笑顔が見られている。また、希望にて外食をしているほか、コンビニ弁当も要望により提供している。	職員は食事の時間は一緒に過ごしているが、同じ食事を摂る事により味付けなどが確認できる体制の検討も期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は身体の状態に合わせて摂取して頂き記録をしています。又、入浴前後や外出時等には水分補給をして頂き、その他1日何回かに分けてお茶・牛乳等飲用して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけ、必要な方には準備・見守りしながら義歯洗浄や歯磨きを行っています。生活歴から毎食後には抵抗のある方もおり本人の意思を尊重する部分もあります。		

グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活支援記録を確認しながら排泄パターンを把握してプライバシーに配慮しながらトイレ誘導を行っています。状態変化が見られた時には、個別にパターンを取って対応の検討を行います。	生活支援記録を取り排泄パターンを把握して、個々の利用者にあった誘導の方法や声かけなど細かく配慮されている。夜間においても、個人個人に合った誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を毎日行い排便パターンの把握に努めています。運動不足になりがちなので、ラジオ体操、散歩への声かけをしています。水分補給にも心がけています。必要によっては医師と相談し便秘薬の調整を行います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を尊重しながら、だいたい1日おきを目安に入浴を行っています。入浴時はゆっくりとその人に合わせた入浴スタイルで入浴して頂いています。	1日おきの午後2時を目安に入浴準備をしているが順番等は希望があれば柔軟に対応をしている。困難な方場合は時間を空けて誘ったり、浴室で不安定な方には2名の職員が付き添い、安心安全な入浴ができるよう個々に添った配慮支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて休息を促しています。生活のリズムは崩さないよう配慮し日中は活動する事も忘れないよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の内服薬の説明書はいつでも見られるようにファイリングしています。勉強会を設け薬内容の確認も行っています。内服薬に変更があった際には細心の注意を払い、業務日誌や申し送りノートを活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加、例えば洗濯物たたみが得意な方には手伝っていただいたり食器拭きを一緒にしたりすることで自分の役割を感じられるようにしています。また行事や外出・外食などで気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回以上の外出支援や日用品購入等実施しています。一人ひとりの状態を見ながら、その時々で1対1での外出もしています。ご家族様にも協力して頂き外出、外泊などができるようお声かけしています。	散歩は毎日行っている。難しい方は広い法人の敷地内を外気浴を兼ねて行っている。法人の車で、数名で外出をしたり、家族と相談しながら利用者本人が買いたい物を自分で選べるよう外出の付き添い支援している。	

グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所で管理させて頂いています。ご本人の強い希望により個人管理をしている方もいらっしゃいます。必要時にはお小遣いの中から本人の希望される商品と一緒に購入できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話から職員が家族に状況をお伝えした後に、本人とお電話で話せるように支援しています。手紙については、ポストへ投函する等の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は温湿度計にて快適に過ごせるよう気を配っています。過度な飾り付けは避け、切り花や作品を飾ったりしています。	共用の空間では1日2回の温度確認を行っている。また、体感の違いもあるため席替えの配慮をしている。季節に合った切り花や毎月利用者好みの作品が飾られ安堵感が得られるようになっている。リビング内6畳のスペースでは洗濯たみや気楽に横になる利用者もある事から居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になれるような空間はありませんが、ソファや畳コーナーに腰掛けて息を抜く事が出来ます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた、家具や寝具を持参して頂いています。状態に応じて、本人・家族と相談しながら居心地の良い空間ができるように工夫しています。	持ち込みは自由となっており、使い慣れた家具やベッド・好みの物が配置され、毎日ホウキで掃き掃除をする利用者もいる。レイアウトは入居時や状況に応じて、本人や家族と相談しながら変更するなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のお部屋がすぐにわかるよう花や絵をかざったりしています。廊下、トイレ等には手すりを設置しています。		